

<輸血検査>**◆ 血液取り違え、患者死亡**

町立病院で、食道動脈瘤破裂の大量出血で救急搬送された40代の男性の処置中、誤って検査で不合格となった血液を輸血したと発表した。

男性はまもなく死亡した。副作用防止のため輸血の血液を病院の臨床検査技師が、誤って不適合血液を適合として運び、そのまま使われたという。県警は司法解剖し、死亡との因果関係を調べている。

病院によると、男性は夜、心肺停止状態で搬送された。緊急入院し心肺機能はやや回復したが、輸血開始から約1時間後に脈拍が低下、再び心肺が止まり翌日未明に死亡した。

病院の臨床検査技師が輸血管理システムの設定を誤り、検査結果の「適」「不適」を逆にして伝票に手書きしたのが原因という。検査する職員は通常6人いるが、当時は夜間で1人だけだった。

◆ 名前の確認怠り輸血ミス

市立病院で手術した血液型AB型の50代男性にO型を輸血していたことがわかった。患者の容体は安定し、生命に危険はないという。

病院によると、男性は2004年5月深夜、

大けがをして救急外来に搬送され、手術で1840ミリリットルの輸血を受けた。通常、輸血の際には患者から採取した血液型の検体と、輸血申し入れ書にそれぞれ患者の名前を記入し、確認する。

今回は、隣のベッドにいたO型の60代男性の検体だったのに、輸血申し入れ書と名前の確認を看護師や臨床検査技師が怠った。翌日の朝の点検でミスが判明。病院は家族に謝罪し、警察に届け出た。

◆ 輸血ミス後、患者死亡

2003年、X病院で入院していたAB型の80代男性にA型の成分輸血が行われ、男性が輸血から3日後に死亡していたことが分かった。

同病院は輸血ミス認め、警察署や保健所などに届けたが、死亡との因果関係は薄いとされている。病院によると、男性は9月11日に入院、翌12日、胃・十二指腸かいようによるとみられる下血のため輸血が必要となった。ところが輸血前の血液型判定で臨床検査技師2人が、AB型をA型と誤って判定、13日までA型を成分輸血した。13日午後の血液型の再検査でAB型と判明。輸血ミスによる拒絶反応はなかったが、男性は15日未明、十二指腸かい

ようによる出血性ショックのため死亡した。院長は患者や遺族に謝罪した上で、「再発防止に全力を挙げるとともに、<血液型判定の>実効あるマニュアルをつくり、二度とミスを起こさない」と話している。

「臨床検査技師賠償責任保険(任意加入)」の加入は、年々増加しているが、累積で男性 5,048 人、女性 18,213 人に止まっている。以下の集計は累積数であり、現在の解約者数を含んでいる。加入は、採血業務に就く時点での加入が多くなっている。

24 歳以下	男性 239 人	女性 1,079 人
25-29 歳	男性 527 人	女性 2,618 人
30-34 歳	男性 541 人	女性 2,062 人
35-39 歳	男性 564 人	女性 1,845 人
40-44 歳	男性 744 人	女性 1,586 人
45-49 歳	男性 881 人	女性 1,431 人
50-54 歳	男性 828 人	女性 1,323 人
55-59 歳	男性 479 人	女性 902 人
60 歳以上	男性 245 人	女性 320 人

※「臨床検査技師賠償責任保険」事務代行会社、(株)メディックプランニングオフィス資料による。

認定心電検査技師、認定一般検査技師 平成 21 年度認定試験 終了!

- ◆ 認定心電技師認定試験が、平成 21 年 10 月 25 日(日)、損保会館で実施された。受験者数は 164 名と昨年より 45 名増加した。受験者の多くは、本年 5 月に日臨技から発刊された「認定心電技師のための心電図の読み方」を持参していたのが印象的であった。
- ◆ 認定一般検査技師試験は、平成 21 年 11 月 15 日(日)に、同じく損保会館で実施された。受験者数は 98 名と昨年と同様であった。
- ◇ 合格者発表は、いずれも、平成 22 年 1 月末~2 月初め頃となる予定である。
- ◆ 認定臨床染色体遺伝子検査師認定試験は、平成 21 年 12 月 6 日(日)、日臨技会館を会場に実施する予定である。受験希望者数は、11 月 9 日現在で染色体分野 2 名、遺伝子分野 4 名となっている。

好評発売中! 「認定心電技師のための 心電図の読み方」

認定心電技師試験に合格された人ばかりではなく、これから試験を受ける人たちのテキストでもあります。ぜひ、購読されて認定試験を受験されることをお勧めします。 **価格:(消費税含む) 5,000 円<会員特価 3,000 円>**

平成 22 年度

日臨技臨床検査精度管理調査<予告>

本調査は、日常検査業務に最も即した形で実施しています。また、診療報酬改訂にも対応すべく関連検査の調査形態を変更しています。各施設における精度管理の指標として、参加して下さい。平成 22 年度予算措置を行うにあたり参考にさせていただきようお願いします。

◆ 実施日程<予定>

- ・ 申込書類発送: 平成 22 年 3 月中旬
- ・ 申込締切: 平成 22 年 4 月中旬
- ・ 手引書等発送: 平成 22 年 5 月下旬
- ・ 試料発送: 平成 22 年 6 月上旬
- ・ 報告締切: 平成 22 年 6 月中旬

◆ 実施内容等、詳細は「医学検査」第 59 巻 3 号<3 月号>でご案内します。

※ 尚、今号の「医学検査」に、各部門調査項目の詳細等が紹介されていますので、ご覧下さい。

お知らせ!

MTJ「臨床検査値の基準範囲」設定に向けての対談

去る、10 月 24 日、細萱精度保障事業部常務理事が山口大学大学院市原清志教授と対談した。

これは、The Medical & Test Journal (じほう社)の新年号企画によるものであり、当会の臨床検査データ標準化事業および基準値設定事業、国際臨床化学連合など 4 団体による、共有基準範囲の設定に関する国際プロジェクト、基準範囲設定にかかる基準母集団の必要条件・測定条件・統計学手法の方法論、設定基準範囲の臨床現場における普及活動の重要性一等、具体的内容におよぶ対談であった。

対談内容については、The Medical & Test Journal<新年号>をご覧ください。

また、国際標準化の動向を考慮し臨床検査における新しい精度マネジメント体系と信頼性の維持・向上のための具体的手順および手法に関する教本として、「臨床検査精度保証教本」の発刊に着手した。大いに期待されることである。